



バンコク便り



1. はじめに

先週、一部でタイ国内での新型コロナウイルス感染者が確認されたと報道されましたが、実際は海外からの帰国者で検疫隔離後の陽性反応となったため、市中感染者としては約90日間確認されていません。最近では在タイ日本人の身近な方でも現在は検疫隔離中との話をよく聞くようになりました。在京タイ大使館 HP 記載の通り、必要な手続きを経ればタイに入国できる可能性はありますが、手続きも複雑となるため入国制限緩和となった現在でも難しい状況は続いています。

2. 当地ビジネス情報

(①バンコク国際モーターショー開催)

7月15日～26日、バンコク近郊で自動車展示・販売会「第41回バンコク国際モーターショー」が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大後、世界初の大規模自動車展示会とのことで、徹底した感染防止策が取られました。展示場内はこれまでの商談会と変わらず多くの人で賑わっていましたが、主催者発表によると来場者は約104万人（前年約160万人）、成約台数（四輪・二輪車合計）は2万2,791台（前年比△53.8%）と大きく減少しました。



7月上旬に世界初公開された
新型 SUV カローラクロス外観

(②2020年上半期のタイへの海外直接投資状況 ～ 申請額では日本がトップに)

タイ投資委員会（BOI）の発表によると、2020年上半期（1月～6月）のタイへの直接投資申請額は、全体で前年同期比33.5%減の759億バーツ（約2,504億円）、投資件数では5.3%増の459件となりました。そのうち日本は226億バーツ（約745億円）と申請ベースでは1位となっています。

一方、認可額全体では、41.5%増の1,607億バーツ（約5,303億円）、件数は26.5%増の535件となり、こちらは中国が3.3%減の354億バーツ（1,168億円）で1位、日本は17.7%増の344億バーツ（1,135億円）で僅差の2位となっています。

またタイ資本も含めた投資状況では、タイ政府が産業の高度化を目指す「タイランド4.0」のターゲット産業の中でも、重点投資誘致分野（新Sカーブ産業(*)）とされる医療と航空分野などは大幅に増加しています。今後、新Sカーブ産業の投資恩典は拡充される方針であり、且つ、新型コロナウイルスの抑え込みに成功していることから、ASEAN諸国の一大投資先として、タイへの注目は更に高まりそうです。

(*)新Sカーブ産業：医療、バイオテクノロジー、デジタル、航空、自動システム・ロボットの5業種

3. 現地トピックス

(タイ王室の保養地ホアヒン)

バンコクから南西に約200km、車で約3時間程に位置するプラチュアップキリカン県のホアヒンは、タイ王室の保養地として知られるリゾート地になります。バンコクのような人混みや交通渋滞もなく、治安も良いことから移住者や長期滞在者も多いそうです。

名門ゴルフ場やシュノーケリング、シーフードなどの魅力もあり、コロナ禍で海外への移動が制限される中、在タイ日本人の間でも注目度が高まっています。日本では同じビーチリゾートのプーケットやパタヤなどが有名ですが、ホアヒンビーチではエンジン音がするマリンスポーツが禁止されているため、静かにのんびり過ごすバカンスとしておすすめのスポットになります。タイへの移動が自由になった際には、この地域への訪問も検討されてみてはいかがでしょうか。



静かな海辺での乗馬体験

【本件に関する連絡先】 営業推進部 地方創生室 石井・高橋・榎 023-626-9050

【作成協力】 カシコン銀行日系金融法人チーム（在バンコク）